

税理士の ひとりごと

No. 132

命までは取られない

税理士 齋藤明

50歳を超えたくらいからでしょうか？ 飲み会の席などで病気や健康の話題を耳にすることが増えたような気がします。そんな時には、比較的健康な私は「また始まったよ」と少々ウンザリしながらそれを聞き流していたのですが、ふと気が付けば私も、体調や健康のことが気になる健康オジサンになつていたのです。

最近私がそんな風になってしまったのには理由があります。それは今年の10月にメンタワイ諸島というところにボートトリップに行くことになったから。2週間ずつと、定員15名ほどのボートに乗って、プロサーファーレベルの人にしか乗れないようなデカ波を追いかける旅。正直申し上げて、それは私のレベルで乗れる波ではないのです。

昨年と同じツアーでは、海外のサーフィン雑誌に載るようなサーファーがサンゴ礁に叩きつけられて腰を骨折し、また他のサーファーは、海底のサンゴ礁の上で波に揉みくちゃにされた結果頭部を20針縫う大怪我を負ってしまったと聞いています。そんな私に、今回のボートトリップの主催者からは「サイトーさんはくれぐれも無理しないで、自分の乗れそうな波にだけチャージしてください」と念を押され、正直私は少し怖気ついてしまっているのです。

思い起こせば、私は生きていくうえで大切なことの多くをアウトドアで学んできました。本気のアウトドアの場においては、暑かったり、寒かったり、痛かったり、シンドかったり、厳しい状況に追い込まれることが頻繁に起こります。そんな時に、「あゝ、もう駄目だ！」「あゝ、痛い！」「あゝ、帰りたい！」なんて口に出したとしても何の解決にもなりません。それどころか、仲間の足手まといにしかありません。だから私は、そんな時にこそ、笑って周囲を鼓舞できるような人になりたいと思つて生きてきました。